

盛岡セイコー工業(株)様訪問記

【生物多様性保全に取り組む会社様】

本年3月に、東経連としてカーボンニュートラル(CN)の達成に向けた第5回目の勉強会として、「生物多様性とネイチャーポジティブ経営の重要性」をテーマに開催いたしました。その際に、盛岡セイコー工業(株)様(岩手県雫石町)からリモート参加のご希望があって、数名の方からご聴講頂きました。これをきっかけとして盛岡セイコー工業(株)様について、興味を湧いてお調べしたところ、同社が「自然環境との共生」「生物多様性保全」に一早く取り組まれていて、環境省東北地方環境事務所様も注目している存在で、昨年度には「全国みどりの工場大賞」において「東北経済産業局長賞」を受賞されるなど、輝かしいご実績もあることを知りました。

これまでのCN勉強会から「CN達成に向けては地球の生態系全体での観点が必要」という知見を得て、省エネ等によるCO2削減ばかりでなく「生物多様性保全」も重要なアプローチであるとの認識から、CN勉強会への同社の参加の仲介を頂いた岩手銀行地域貢献部様を通じて見学取材に伺わせていただきました。

【隈研吾氏設計の工房】

時季も新緑の美しい6月上旬、もとより自然の豊かな岩手山麓の雫石町を車で進み、ご指定の「グランドセイコースタジオ 雫石」に到着しました(写真)。著名な建築家・隈研吾氏の設計とのことで、岩手山に向かって屋根を大きく跳ね上げた造りで、「非常に」スタイリッシュな建物でした。いかにも隈研吾氏らしい木造で、ここから既に自然に溶け込む雰囲気を感じられました。

なお、ここは建物の「グランドセイコースタジオ」の名前のおり、高級時計ブランド「グランドセイコー」の工房です。ここで時計製作の「匠(たくみ)」たちが働いています。



「グランドセイコースタジオ 雫石」外観



スタジオ内廊下(神社のようでした)

【THE NATURE OF TIME】

同スタジオでは、加藤社長以下幹部の皆様にお迎えいただき、中の会議室でスライドや動画を写しながらご説明頂きました。まず、この美しいスタジオはグランドセイコーのブランドフィロソフィ「THE NATURE OF TIME」を具現化したものということでした。ガラスを多用することで、建物の中からも周囲の自然を感じられるようにしているそうです。グランドセイコーのデザインも、WBCで大谷選手がヌートバー選手に贈ったとされる「白樺モデル」のように、主として日本の二十四節季や自然などの感性的価値をモチーフにしているとのことでした。

【自然と共生する時計工房】

本題の「生物多様性保全」については、まず、同社では古くから廃棄物削減や資源循環の目的で、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を徹底しており、部材のリサイクルや工場排水の浄化などに取り組んでいるとのこと。工場ではメッキなども行うために化学薬品も使用しますが、廃水においては、大規模な排水処理施設を使用して生物が住めるほどまでに無害化し綺麗な水にして川に流しているそうです。そこから進んで敷地内の緑地を生物たちが住みやすいようにする生物多様性保全活動に取り組んだとのこと、同社では敷地内にとどまらず、周辺地域や県内他地域(平庭高原の白樺林など)の自然保護活動にも取り組んでいます。

同社は既に、2030年までに国土の30%以上を自然環境エリアとして保全するということを目指した、環境省が主導する”30 by 30 アライアンス”に加盟し、敷地内にビオトープなども整備して、OECM (Other Effective area-based Conservation Measures：保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)、いわゆる「自然共生サイト」の認定を目指しています。



敷地内の水辺ビオトープ「わくわくトープ」
正面は岩手山



虫ホテル (これも隈研吾設計)

【カモシカやホタルも】

水辺ビオトープ「わくわくトープ」では、自然の力を利用した水の浄化機構を持ち、工場の雨水などを水源に水資源循環を行いながら、水質を維持しているそうで、池ではオタマジ

ヤクシやドジョウなどが泳ぎまわり、きれいな水辺の代名詞といえるホテルも出るようになったそうです。また、敷地内にはセンサー自動撮影カメラが設置されており、リスやタヌキ、ウサギ、カモシカなど多くの野生動物が敷地内を訪れていることを確認でき、動物たちを見かける頻度も増えているようで、同社の保全活動によって動物たちの生息環境が改善していることが覗えます。

【時代が追いついた】

外から会議室に戻ってさらにお話を伺いましたが、加藤社長によれば同社の自然共生活動を「先進事例だとは思っていません」との事でした。もともと同社は自然が豊かだから雫石町に立地したわけではなく、工場の工程上、化学薬品は使用するものの、徹底的に浄化して、自然環境を汚していないということを地元の住民の方々にも理解して頂くために環境保全活動を進め、折々に見学会なども実施しているそうです。その中で当然やるべきこととして始めた自然と共生する活動が、SDGs や CN が求められる時代になって次第に周囲から評価・注目されるようになったようで、まさしく「時代が追いついた」形だといえます。

【ここで働きたい】

同社は精密な機械式時計の製造工房であり、組立作業工房はクリーンルームとするなどの環境を整備することはもちろんのこと、精密作業に携わる「人」の育成を大事にしておられ、資格制度も設け、黄綬褒章を受章するレベルの「現代の匠」を養成されています。また、子供たちを対象とした環境教室等の次世代教育にも長年取り組まれ、こうした活動を通じて、同社の工房や社風、環境の良さを肌で感じて貰い、ここで学んだ子供たちが成長して高校卒業などの時期に「盛岡セイコー工業で働きたい」と言う生徒も現れるなど、人材採用面での効果も実感しているとのことでした。



組立工房（二階から）



組立工房（廊下から）

【聖地巡礼】

同社では Website で見学ツアーの予約を受け付けておられます。ただ、非常に人気で、驚いたことに受付開始数分で枠が埋まってしまうこともあり、すぐにキャンセル待ちになっ

てしまうそうです。

「グランドセイコースタジオ雫石工房見学予約サイト」<https://gs-studio-shizukuishi.resv.jp/>

伺ったところでは、海外の「グランドセイコー」愛好者の方々の見学も多いそうで、同社では英語での見学対応の体制も敷いておられるそうです。これもある種の「聖地巡礼」なのかもしれません。こうした来訪者が改めて美しい岩手・雫石の自然に見事に溶け込んだ同工房の佇まいにも感銘を受けて帰るそうです。(インバウンドにも貢献しそうですね)

【匠の作品】

見学の終わりに同社製作の腕時計(製品というよりも作品)を試着させて頂きましたが、美しい時計に直接接触して試着までさせて頂いたのは緊張しました。特に、歴史の説明を頂き、工房も見学させて頂いた直後とあって「いつかは欲しい」との思いを禁じえませんでした。



歴代セイコーウォッチの陳列棚



試着もさせて頂きました

これまでご紹介したような同社の自然共生の取り組みはセイコーグループとしての思想の体现で、製品のブランド価値の向上にも大きく寄与していることは間違いないと実感しました。

最後になりますが、今回は、ご多忙のなか加藤社長以下幹部の皆様方に丁寧にご説明ご案内を頂き、感謝のしようもございません。また、同社をご紹介頂き、ご同行も頂いた岩手銀行様にも改めて御礼申し上げたいと思います。



ご対応頂いた加藤社長

以上

【盛岡セイコー工業株式会社】

〒020-0596 岩手県岩手郡雫石町板橋 61-1

TEL : 019-692-3511、FAX : 019-692-1170

<https://www.morioka-seiko.co.jp/>

(取材・記事作成：一般社団法人東北経済連合会 経済政策グループ・佐藤) 2024.6.23 記